

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 4月 第110号 年間購読料1,000円(1部100円)

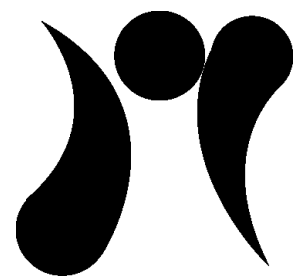
メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

『せいりょう園介護心得』—認知症と自立支援—

認知症の人は、様々な事柄ができなくなる事を自覚する初期の頃には、自分が自分でなくなっていく不安の中で混乱しながらも懸命に生きています。認知症の進行に伴いやがては在るがままの姿で、ベストを尽くして懸命に生きようとします。知性も理性も上手く働かず、体力も低下する中で持てる力の全てを尽くしますが、周りの人の常識には合いません。更に進行すると、生命力の限りを尽くしての営みを見せて最期を迎えます。レーガン元アメリカ大統領がアルツハイマーだと診断された時、ナンシー夫人は、『スローグッバイ』と言われました。より良き別れのときに向けて、お互いに準備する時間が残されているのが認知症の介護です。

不安と混乱の中での生活を支えるのは、経験則がもたらす生活の安心感と他者への信頼感です。知性も理性も体力も失う中での生活を支えるのは、生きている事を実感する感性や感覚です。

別れのときに向けてゆっくりと全ての力を失う過程を見せる認知症の人に対して、失う力に焦点を当てるのではなく、残る感性や感覚に働きかける介護が、自立した最期を支えます。介護者自らの老いの暮らしを支える安心感や感性・感覚にも繋がっていきます。



1 地域福祉と街づくりの原点が介護の現場に

障害を持つ人や介護を必要とする人を、地域社会の一員として生活できるように支えるのが、地域福祉の仕組みです。目の見えない人や車椅子の人でも、自力で移動し活動できる街づくりが、地域福祉を支えます。そして、認知症の高齢者や知的障害・精神障害を持つ人など、生活全般に支援が必要な人の生活を支える地域福祉の充実が、多様な文化と多様な価値観を持つ人々が共存し、多様な選択と多様な消費が混在して、経済的にも持続が可能になる社会を創ります。

人として避けることの出来ない老いと死に向き合う暮らしに係わる経験が、そして人生を締め括る姿を見送る経験が、思想や信仰や芸術など人間のみが持つ精神的な営みを伝える重要な役割を果たします。先天的な障害を持つ人々の懸命に生きる姿が、人が生きる上での最も普遍的な価値を教えます。介護を要して生きる人々の存在は、地域の人々にとって学びの宝庫であり、高齢者介護の分野でも障害者福祉でも、地域ケアが最も主要な課題とされている理由が其処に在るのだと思います。

認知症の人は、様々な生活能力を徐々に失い、別れの時に向けての過程を家族や介護職に委ねて、ゆっくりと最期を迎えます。現在の認知症介護の現場では、失っていく力に焦点を当て、低下する力を押し上げ補う介護を評価し、進行を遅らせる薬を投与し、回復を目指して様々な働きかけを行い、機能の活性化を図ります。

短期的には回復の効果が上がりますが、暫くするとともに機能が低下し、また新たな取組を模索しなければなりません。其れを何度も何度も繰り返します。そしてやがては、回復の兆しが殆ど見えず最期の瞬間が視野に入る場面に遭遇し、多くの人々が施設や病院を利用して、地域から離れていきます。

そして亡くなる人の8割が病院、1割が施設で最期を迎えています。回復をめざして行う介護が、最期を迎える過程を地域の一員として支える役割には繋がっていない状況が明確に現われ、地域ケアの最も大切な場面が地域から消え去っています。回復を目指すのではなく、今の力で最善を尽くす暮らしを支える介護が、最期の瞬間まで寄り添い支える介護者を育むのです。

最期の瞬間まで懸命に生きようとしている生命の営みを支え、完結する姿を見届け見送る介護が、地域福祉の基本であり、社会を持続させる根源的な営みである事を自覚したい、と願います。



22年度事業計画をホームページに掲載しています。

どうぞご覧ください。 URL <http://www.seiryoen.or.jp>

Y・Kさんのターミナルについて

ユニット型特養介護士 林 晴奈

Yさんは平成9年よりせいりょう園のデイサービスを利用され、その後ショートスティ利用を経て平成17年より特養へ入所されました。

入所当初より認知症を原因とする徘徊や同様の訴えが繰り返しあり、昼夜問わずに「どこにおったらええの?」といった不安を訴えておられ、そんな不安を解消するようにショートスティで一緒になった利用者の方と常に行動を共にされていました。ただ、昔から人付き合いは苦手な方であったようで、度々その利用者の方とは衝突することもあり、時にカバンを引っ張りあったり、名前を叫びながら追いかけて回したり・・・と、強烈な印象を受ける場面は多々みられていました。

いつも不機嫌そうな表情を浮かべていて、あまり口数は多くはない方でしたが、時折見せて下さる笑顔がとてもぎこちなくて、不器用で寂しがり屋なYさんを私は女性らしくて可愛らしい方だと思っていました。

ユニットに移ってからもしばらくは、昼夜問わず同じような状態で他の利用者の方や職員に不安を訴えては後を追いついて、足がもつれて転倒され大腿骨にヒビが入る事態となり、精神面の安定を考慮した精神薬を服用することで徐々に精神面は落ち着かれていきました。

それに合わせて、四肢の筋力低下が見られ、食事以外はほぼ全介助となり、本人からの自発的な訴えはほとんどなくなっていきました。

家族の方もそういった状況になり色々心配されていましたが、徐々に面会の回数も増え、面会中は昔の話をよく本人や職員に話して下さり、その話を聞いてYさんが涙を流される事もありました。

昨年7月頃より口の開閉運動や頭を振るような不随意運動が見られ始め、食事にも介助が必要になるようになったのですが、食欲はしっかりと維持されていていつも全て食されていました。

車椅子からリクライニング車に変え、離床の時間を極力多くはかるようにしていましたが、声をかけるとしゃがんだ声で「ああ」と短く返事が返ってくる程度のやり取りの中で、私たちにできることは何なのか・・・、その時々状態をみながら、他の職員と情報を交換し合いケアにあたりました。

昨年11月頃より嚥下状態が悪化され、昼夜逆転による傾眠や倦怠感により食事量にむらが見られ始め、それに合わせて血液循環の悪化から手足の血色不良や浮腫などが出現し、ターミナルに向かって少しずつ状態は落ちていきました。

年が明けて1月2日、その日も食事はリクライニング車でホールへ出て食べておられましたが、それが最後の食事となりました。

その夜、夜勤職員が見守る中静かに息を引き取られ、事前の連絡でかけつけたご家族の方と共に最期の時を過ごされました。

葬儀はご家族の希望でせいりょう園であげることになり、多くの職員が参列することができました。これまでせいりょう園でYさんと関わってきた職員一人ひとり、Yさんとの思い出はいろんな意味で強く心にやきついていることだと思えます。

Yさんにとって人生の最期をせいりょう園で迎えることが、本人の満足のいくものがあったかどうかは分かりかねますが、そう思ってもらえるようなケアをこれからも続けていきたいと思えます。

講師 浄土真宗本願寺派妙願寺 岩階 誠ご住職

今月の仏教講話は東神吉町升田、浄土真宗本願寺派 妙願寺、岩階(はし)誠ご住職に来て頂いた。この日は天候も良く、暖かくて大勢の参加者を予想していたのだが、期待に反して最近では珍しいことに少人数であった。40代半ばのご住職ははっきりとしたよく通る声で講話(法話)を始められた。ご住職は法務が無く自由なお時間がある時はTVをよくご覧になるとか。ワイドショウなども見方によってはその時々に関心事がいろんな観点から見えて有意義な事もあると仰る。TV鑑賞の話から、今年のアカデミー賞のドキュメント部門にクジラやイルカの保護をテーマにした作品が選ばれた事に話は進む。最近の大型TVの大画面に、狭い湾の中に追い込まれたイルカが棒などで殴打され、血まみれになっているところが何度も映し出されると、いい気持ちはしない。

ご住職はTV鑑賞に負けないくらい買い物がお好きで、行きつけのスーパーの名前が飛び出した。魚が好物のようで、カレイ、メバル、ガシラを探し、無い時はクジラの赤身の肉を買う。「赤身の肉の上に白ネギを乗せ、ごま油を垂らして酒の肴にすると最高ですね」『頂きます』と言って箸をつけると奥さんが『どうぞ』と答えられる。この『頂きます』という言葉には二つの意味があり、一つは文字通り食事を作ってくれた人に感謝の気持ちを表す。もう一つは自分の生命を繋いでいくために他の生命を奪ってしまうので「あなたの生命」を頂きます。そのものに対する感謝の気持ちを表す。ところが時にはこの奥様の反応にカチンと来る事があるらしい。それは勿論ご住職の方にも虫の居所が悪い時もあるからなのだろうが、些細な奥様の仕草、対応に過敏になられる事があるようだ。しかし腹が立ってもぐっと我慢しなければならない。中国の古代、春秋の時代、呉の将軍が著した兵法書『孫子』の一節を紹介される。『彼を知り、己を知らば百戦危うからず』男が火縄銃なら女性はマシンガン。口喧嘩して勝てる筈がない。「一発撃つ間に、こっちはきっと血まみれです」(爆笑)

次に世界各国、各地に独自の食文化があると話を進められる。ある国では『犬』、『猫』を食材とする国もある。又、ある動物に対して、種を大切に増やしていかなければならないとする一方、間引いて少なくすべきとする国もある。ここには日本人と特に西洋人との違いがあるようである。

違いといえば英語に訳しにくい日本語があり、「渚」、「名残惜しい」、「津波」、「有難い」などで、「有難い」は英語では(thank you(サンキュウ):感謝する、welcome(ウェルカム):歓迎する)、で片づけられがちだが、日本語ではそれ以外に「有難い」:文字通り有難い(有ることが難しい)という意味がある。世の中には有って当たり前なことなど何一つなく、すべて『有難い』はずなのだが、人は最初から持っているもの、備わっているものに対してあまり感謝しない、感謝の気持ちを持ちにくいものである。ご自分の体験談や因幡地方のお百姓がお坊さんに「自分の鼻の穴が下向きで良かった。雨が降っても鼻から水が入らないで助かる」と言った民話を話された。

最後にこの地出身の有名人の話から、別府出身の江戸中期の俳人滝瓢水の俳句を紹介された。彼は裕福な船問屋に生まれるが放蕩三昧、旅に明け暮れ家業を一代で潰してしまう。

* 歳消えて 日当たりの良き ボタンかな

倒産して家屋も無く、更地になった敷地を眺め一句

* さりとて 石に布団も 着せられず

放蕩の末、母親の死に目にも会えず、墓参して一句

* 浜までは 海女も蓑着る 時雨かな

その時考えられる最善の策を選ぶべしと一句

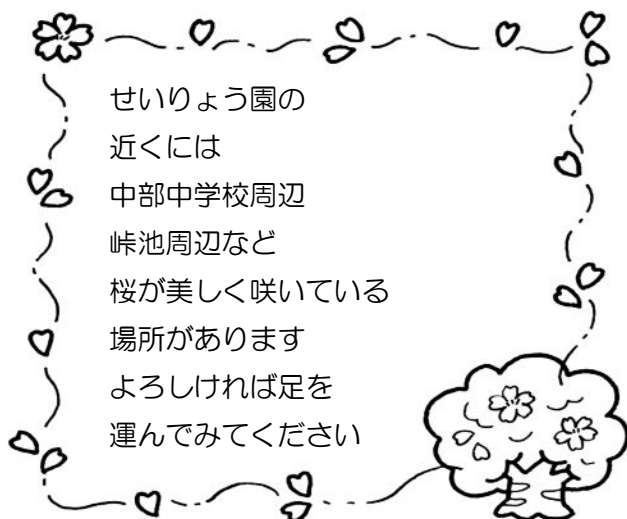
クジラの話から、この世界にはお互いに簡単に受け入れることが出来ない歴史、文化の違いがあり、それを説明すべき言葉自体、「有難い」という言葉一つをとっても完全にその役目を果たす事は難しい事が分かる。瓢水の句を最後に挙げられたのもこの句が『その時々を一生懸命生きる事が大事である』と言う仏教の教えに通じるもので、今回の主題となったのではないか。

最後に「生かされて生きている事に感謝したい」というお言葉で終えられた。時間を少しオーバーしてのご講話でした。有難うございました。

4月のせいりょう園の様子



きれいな桜が
咲きました



介護者の集いー認知症サポーター養成講座ー テーマ「認知症のおさらいパート2」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

認知症サポーター養成講座の冊子には「認知症サポーターは特別なことをやる人ではありません」と書かれています。では、特別ではないことで私たちの出来ることは何でしょうか。今回の介護者の集いでは、認知症サポーターの役割や可能性についてみなさんと話し合いました。

加古川市で、認知症を患っている方の介護をされている家族が中心となり「加古川認知症家族の会」が発足した、というニュースがあったので紹介させていただきました。この会では認知症のことだけでなく、介護に関係する様々な話題や情報交換の場所になる予定とのこと、認知症サポーターにとっても学びの場になるのでは、と思いました。サポーターの可能性についても何かヒントを得ることができるかもしれません。

○グループワーク

認知症サポーターの役割について話し合いました

- ・ 認知症という病気について、まだまだ知らないことがたくさんあるので、正しい知識を身につけておきたい
- ・ 地域の中で認知症の方と出会った時に、自尊心を傷つけないような接し方ができるようになりたい
- ・ 親戚に認知症を患っている人がいて、家族の介護が大変だと聞いています。本人のサポートも必要だが、介護をしている家族のサポートも必要である
- ・ 認知症の方の一人暮らしは、火の元の心配や徘徊して戻ってこれなくなってしまうなど、認知症サポーターの見守りがあれば暮らせるのではないか
- ・ 見守りも監視になってしまうと、暮らしが窮屈になってしまうのではないか
- ・ (自分自身が認知症ではないか・・・と葛藤されている方の意見) 夜になると見えるはずのない人影や話声が聞こえてきます。不安な気持ちでいっぱいになります。もし何かあった時には、助けを求める先があればいくらか安心します

感想

養成講座の冊子には、「認知症サポーターは特別なことをやる人ではありません」と書かれています。続けて「認知症を理解した認知症の人への『応援者』です。」と書かれています。誰に対しての応援なのか、ということと、「応援者」という意味をどう解釈するかで、サポーターとしての役割は変わってくるように思います。

今年度の介護者の集いは、認知症サポーター養成講座という形で、認知症という病気のことだけでなく、介護に関わることについてお話してきました。加古川市社会福祉協議会との共催ということでボランティアセンターに登録をされているボランティアの方たちにも呼びかけました。その他にも地域の方や専門職、毎回参加して下さった方も含めると、年間を通しての参加者は262人にもなり、たくさんの方に参加していただきました。

内容については、認知症の方の権利や責任についてどう考えるべきか、を中心に毎回テーマに沿った問いかけを参加された方に投げかけ、一緒に考えていただきました。回を重ねていくうちに参加されていた方の意見も変わってきたように思います。たとえば、6月に「認知症の方の外出について」というテーマで開催した際には、「認知症の方を外に出すのは危険なので、カギを閉めないのであれば、サファリパークのように施設のまわりにフェンスをすればどうか？」という意見をされた方がいらっしゃいました。これは、認知症を患っている方を心配しての意見だと思います。しかし、もしも自分が認知症を患った当事者になった場合はどう考えるのか？という問いかけに対して、「カギの閉まった場所に拘束されるのは嫌だ」という意見がありました。今までとは違う視点、当事者の視点で考えるときに、発見や気づきがあるのではないかと、思っています。できれば、多くの発見、気づきが私を含めるんな立場の方ができるような、一味違った介護者の集いを開催していければと思います。

お知らせ

平成22年度4月からは「介護者の集い」をリニューアルしたいと思います。名前を「介護についてみんなで語ろう会」に変えて開催致します。一方が発言し伝える場ではなく、参加している方が平等に意見が言える学びの場にしていきたい、という考えでこの名前になりました。

開催日、場所に関しては今まで通り、毎月第4週の金曜日でリバティかこがわ2階となります。時間は午後2時から4時の間で、前半にテーマに沿った投げかけをさせていただき、後半のグループワークでディスカッションをしていただきます。

介護に携わる人と、介護に関心のある人と、地域に住む人と、共に学びあう場でありたいと願っています。ぜひ、ご参加ください！お待ちしております！

次回の介護者の集いは？

- | | |
|---------|-------------------|
| 4月の語ろう会 | テーマ「認知症をよく知ろう」 |
| 5月の語ろう会 | テーマ「介護に困ったら相談しよう」 |

せいりょう園 毎週の行事

- | | |
|---------|---------------|
| 月曜日 | のびのびルーム（自彊術） |
| 火曜日 | のびのびルーム（映画会） |
| 水曜日 | のびのびルーム（カラオケ） |
| | 音楽療法 |
| | 自彊術療法 |
| 木曜日 | のびのびルーム（自彊術） |
| 金曜日 | ピア/教室 |
| | 陶芸教室 |
| 第2火曜日 | 折り紙教室 |
| 第1・3火曜日 | 書道教室 |
| 第2・4水曜日 | お話グループ・福寿草の会 |

せいりょう園 5月の行事予定

- | | |
|----------|----------------|
| 5月 8日(土) | 園長との懇談 |
| 5月10日(月) | 仏教講話 |
| 5月17日(月) | 美容の日 |
| 5月19日(水) | 昼食会 |
| 5月24日(月) | 理容の日 |
| 5月28日(金) | 郷土料理 |
| | 介護についてみんなで語ろう会 |
| | ～介護に困ったら相談しよう～ |

平成21年度第5回グループホーム・小規模多機能運営推進会議の報告

日時 平成22年3月27日(土) 14:00~16:00 特養1Fホールにて
参加者 運営推進委員 9名 ケアハウス施設長 家族 1名 職員 2名
内容 ・ 行事報告 ・ 介護者の集いの報告(2月、3月分)
・ 2市2町グループホーム勉強会の報告(介護職員のストレスについて)
・ ひやり、はっと事故報告

上記記載分報告後に特養に隣接のバリアフリーマンションに居住されていた女性2名
小規模多機能ホーム登録者の方のターミナルの報告があった

報告者：訪問看護師

定期的に訪問し、関わりを重ねてきた。濃厚な医療の処置ではなく、主に
精神的なケアの中で自然な形で最期はとても安らかな死であった

上記の報告を踏まえながら意見交換した

推進委員より

- ・ 在宅で生活している高齢者は異変があると殆どが病院へ搬送され、90歳を
過ぎた方でも気管切開術やペースメーカーを入れた方もいた
- ・ 最期はどうあるべきなのか、どうしたいのか自身の問題として考えておきたい
- ・ 民生委員として今後も地域の中にいろんな情報を発信していきたい
- ・ 認知症であっても人として尊厳のある生活の確保とその方の生きてきた証を
大切にしたい
- ・ もし延命治療を望むのであれば兄弟、姉妹の間で充分話し合いをし、意識の
統一と情報の共有が大事なのは
- ・ 介護職の方は自身の仕事にもっと誇りを持っていいのでは

せいりょう園待機者状況

<平成22年 4月13日現在>

○入所判定済み者 346名

グループの内訳

Iグループ…121名/IIグループ…143名/IIIグループ…69名

○入所判定済み者の現在状況

在宅126名/特別養護老人ホーム入所中8名/医療機関入院中98名

老人保健施設入所中79名/ケアハウス入居中6名/グループホーム入居中11名/不明5名

辞退その他

せいりょう園入所1名/他施設入所3名/辞退5名/死去4名

ケアハウス等空き情報 <平成22年 4月16日現在>

《ケアハウス》

・ 恵泉	: 若干	・ 第二ケアハウス	: 若干
・ シスナブ御津	: 1人部屋3室	・ あさなぎ	: 2人部屋1室
・ ケアハウスアリア	: 1人部屋5室	・ サリットひまわり園	: 1人部屋1室
	: 2人部屋1室	・ 志深の苑	: 1人部屋1室
・ 青山苑	: 1人部屋1室	・ 香楽園	: 1人部屋3室
	: 2人部屋1室	・ めぐみ苑	: 1人部屋1室

[問合せ先]せいりょう園介護相談室

Tel(079)421-7156/(079)424-3433